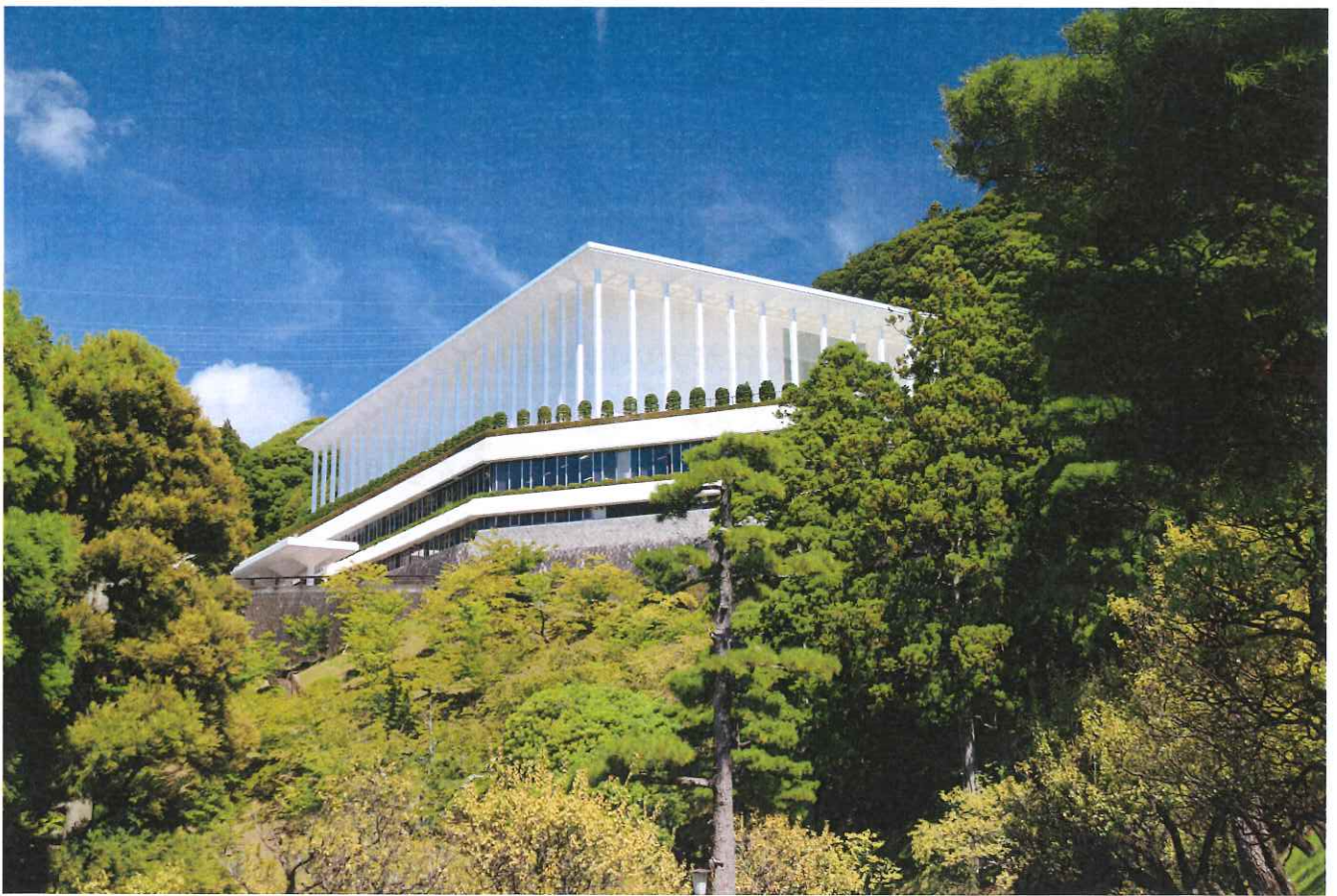




*m i c h i*



9

2023 No.64

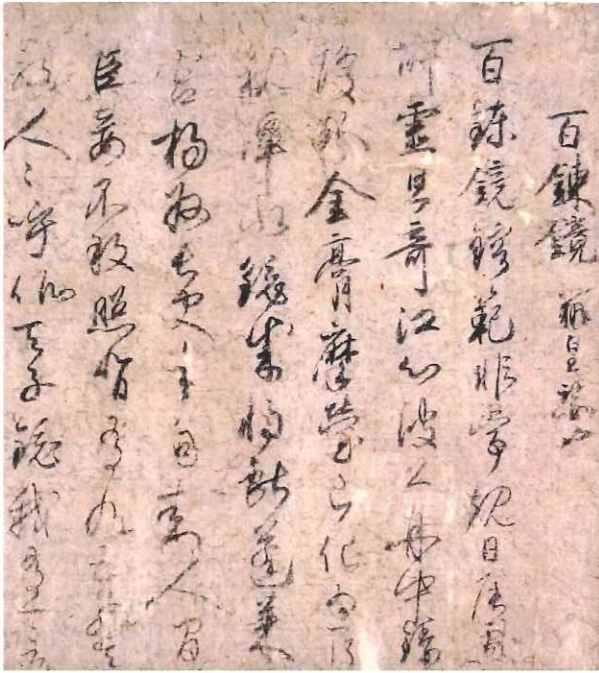
## 天国は美の世界

神様の御目標は、真善美<sup>まっした</sup>完き理想世界をお造りになるのであることは、本教信者はよく知っているところである。(中略)

個人の場合、男性といえども見る人に快感を与えるべく適當の美しさを保つべきで、まして女性にあっては、より美しくするよう心掛けるべきである。もっとも女性にそんなことをいうのは、かえって余計な御世話<sup>よけい</sup>かも知れないが、まあそういう理屈<sup>りくつ</sup>であろう。また一家の部屋内もそうで、天井<sup>てんじょう</sup>の蜘蛛<sup>くも</sup>の巣<sup>す</sup>などにも常に注意<sup>はら</sup>を払い、座敷<sup>ざしき</sup>は塵<sup>ちり</sup>一つないようよく掃き清め<sup>は</sup>、目障り<sup>めざわ</sup>な物は早く片づけるとともに、<sup>ちょうど</sup>調度<sup>きぶつ</sup>、<sup>ぎょうぎ</sup>器物なども行儀よく、キッチンとして置くようにすれば、第一家族の者は勿論、人が来ても気持ちよく自然尊敬の念が湧くもので、その家の主人の値打ちも上がるのである。また家の外廓<sup>がいかく</sup>もあえて金をかけなくともいいが、<sup>つと</sup>努めて修理<sup>おこた</sup>を怠らず清潔にすれば、道行く人にも快感を与えるばかりか、観光国策<sup>こくさく</sup>にも好影響<sup>こうえいきょう</sup>を与えるわけである。それについてかのスイスの話であるが同国は狭いためもあるが、何しろ町も公園<sup>ちり</sup>も塵<sup>ちり</sup>一つないほど掃除<sup>そうじ</sup>がよく行き届き<sup>ゆ</sup>、実に気持ちがいいといわれている。この国の観光客の多いのも、それが大いに原因しているということで、これらも他山<sup>たざん</sup>の石<sup>いし</sup>として、大いに参考としてよかろう。

以上によってみても、吾々日本人は、大いに美の観念<sup>かんねん</sup>を養<sup>やしな</sup>う必要がある。これによって、小は個人<sup>しょう</sup>は元<sup>もと</sup>より、大<sup>だい</sup>にしては社会国家<sup>いそうがい</sup>に対しても、意想外<sup>いそうがい</sup>の好影響<sup>こうえいきょう</sup>を与えることになる。ところがそればかりではない。美の環境<sup>じんしん</sup>によって、社会人心<sup>じんしん</sup>も美しくなるから犯罪<sup>はんざい</sup>や忌まわしいことなどもずっと減るであろうから、このことだけでも地上天国の一因ともなるであろう。最後に私のことを書いてみるが、私は若い時分<sup>じぶん</sup>から美に関したことが好きで、ずいぶん貧乏<sup>いちいん</sup>に苦しみながらも、小さな空き地<sup>ひま</sup>へ花を作ったり、暇<sup>ひま</sup>さえあれば絵を描いたり、できるだけ博物館や展覧会などへ行き、春は花に楽しみ、秋は紅葉<sup>こうよう</sup>を愛<sup>め</sup>でなどしたものである。そうしていまは神様のお蔭で自然に生活も豊かになり、美を楽しむことも思うようにできるとともに、それが御神業<sup>ごしんぎょう</sup>の一助<sup>いちじょ</sup>ともなるのであるが、これを知らない第三者から見ると、私の生活<sup>ぜいたく</sup>は贅沢<sup>ぜいたく</sup>のように見られるが、これも致し方ないであろう。いつも言う通り、昔から宗教<sup>かいそ</sup>の開祖<sup>かいそ</sup>などといえ、貧しい生活<sup>なんぎょうくぎょう</sup>をしながら難行苦行<sup>なんぎょうくぎょう</sup>をし教えを弘通<sup>くつう</sup>したことなどに比較して、あまりに違っているので変に思うであろうが、実はその時代は夜の世界であったから、宗教といえども地獄<sup>じごく</sup>にありながら信仰<sup>ひろ</sup>を弘めたのである。ところがいよいよ時期<sup>こんにち</sup>転換、昼の世界となりつつある今日、反対<sup>じゅう</sup>な天国<sup>じゅう</sup>に住しながらの救いであるから、その点深く考えなければならないのである。

(昭和26年7月11日)



白氏文集切・百鍊鏡 伝菅原道真

平安時代(11世紀初期)



MOA美術館所蔵 国宝 手鑑「翰墨城」

平安時代の学者・政治家として知られる菅原道真(845～903)の筆と伝えられている『白氏文集』の断簡である。巻第4の新樂府(しんがふ)の「百鍊鏡」の部分で、楮紙(こうぞがみ)の素紙を料紙とした格調高い、堂々とした筆跡で書写されている。新樂府の巻頭は「驪宮(りきゅう)高」であるが、京都・陽明文庫所蔵「驪宮高」は料紙・筆跡ともにこの断簡と同一と思われ、もとは同じ1巻の内のものと推定されている。ほかに道真筆と伝えられるものに「式切」「紫切」「讃岐切」などがあるが、真筆と確認できるものは伝存しない。道真の能書家としての記録は『夜鶴庭訓抄』(藤原伊行著)、『入木抄』(尊円親王著)などに見られ、空海や小野道風とともに三聖の一人として古来より謳われている。

(MOA美術館・箱根美術館 美術カレンダーより)

## 《目次》

代表挨拶	4
感謝奉告①	10
感謝奉告②	13
関西地区平安郷奉仕	15
9月の聖地行事	16
シリーズ明主様(7)	18
感謝奉告③	20
感謝奉告④	21
聖地NOW	22
ブラジル信徒の信仰体験談	24
瑞雲郷奉仕研修のお知らせ	26
『21世紀を生きる』(12)	27
シリーズ《幸せの種まき》(3)	30

令和5年 課題

われよしの 心浄(きよ)めて ひとよかれと

祈る心は 神に通へる

〳明主様の示された「道」を求め、まっすぐ歩む〳

## 代表挨拶

西村 正資

秋あきの陽ひは 障子しょうじをもらて衣縫ころもぬえる

妻つまの横顔よこがおか明るくてらす

(昭和八年 明主様詠)

今年の夏は、異常気象における熱波や山林火災、また台風や大雨による水害等々、日本だけでなく世界的にも大きな災害が発生しました。

皆様におかれましては、お変わりありませんか。

私は、災害に関するみ教えを拝読し『大三災と小三災』

の教えに改めて思いを深く致しました。大神様が存在になるからには、大自然にも人間社会にも、無秩序な成り行き任せの現象はなく、何事にも深くて壮大な神様のご意図と律法が存在し、近視眼では、とても理解しがたい大愛が働いているようです。皆様も、今一度拝読されてみてはいかがでしょう。

そのような厳しい中にも、コロナ禍の自粛生活からようやく解き放たれ、日本各地で、伝統を引き継ぐ夏祭りや盆踊り、花火大会や多くの催しが復活したことを報道等で知り、ささやかな安堵を覚えると共に、許されて今ここにあることに、まず感謝の祈りを捧げさせていただきました。さらに被災された方々の復興と共に、私に与えられた使命に、精一杯のご奉仕の誠をお捧げさせていただきます。ただくことを祈らせていただきました。

私は時々“この先、一体どうなるのだろう”と、突然不安になることがあります。そのようなことは、皆様にはありませんか。

なぜ不安な気持ち急が湧き起こるのか。私的にはその原因ははっきりしています。それは、私の中の善性から警戒信号が発信されるからです。“今、何をしなければならぬのか分かっていないのに、それ程の努力も為せていない時”に、よくあるのです。

逆に、何かに夢中に取り組んで、人生に充実感や達成

感で満たされている時には、少々の混乱が起きても不安感はありません。

陽が射せば、すべての人々の上に燦燦と日差しが輝きます。雨が降ればそこに居るすべての人々を濡らします。嵐となればすべての人を巻き込むでしょう。しかし、そのことが人生に吉となるのか凶となるのかは、それは人によって違ってきます。それが運命なのだと言えられています。晴れてよし、雨降ってよし、荒れてもよし。

「運命は、自らの普段の努力によって運ぶもの、自由につくれるもの」と、明主様は「普段の積徳があれば大丈夫」と、お導きくださいました。これほどありがたく勇氣づけられる導きはないと思います。

「早く安心立命の境地になりたい」自分の背後には、天下無双の明主様が付いてくださっている。努力すれば正しく評価され、お守りいただけるのですが、なかなか言い訳を言うことを聞かない厄介な自分がいるのです。人それぞれ境涯は異なりますが、そういう中で、み教え『明主様に倣いて』を、何度も丁寧に拝読することはいかがでしょうか。今までの理解より、また新しい気づきが起こり、知恵が湧いてくると思います。是非、チャレンジしてまいりましょう。

先月号の『道』の感謝奉告には、明主様からの導きが沢山あったように感じます。

仲間の信仰に共に学ばせていただき、後悔の無いように、倣わせていただくではありませんか。

### 『道』八月号の感謝奉告に学ぶ

土佐みろく教会のMMさんは、教会から、地上天国祭の聖地参拝を知らされた時、迷わずご参拝を決意されています。それも以前から「聖地の素晴らしさを未信徒である家族と共に共感したい」と思いを募らせていらつしやつたようで、直ぐに行動に移され、家族を誘われています。結果、夫君、娘さん、お孫さんの四人で参拝されることになりました。

嬉しかったでしょうね。家族揃っての聖地参拝に、自分の夢を乗せて爽やかにお伝えになったのではないでしょうか。一般的に多く見かける信徒家庭の未信者さんというのは、入信に至らないそれなりの理由と経緯があります。伝える側にとっては、まずそのことが気がかりとなり、プレッシャーとなるものですから、つい失敗を想像し「どうしよう」と迷いつつ伝えることが多くなります。

誰かに何かを伝えようとする時、その姿勢は大切です、言葉も重要です。でも最も肝腎なのは、想念（心の内側にあるもの）だと思ふのです。どんなに礼を尽くし丁寧な言葉を重ねてお伝えしても、想念が一番強く早く伝わるのです。つまり「嫌と言うだろうな」「また信仰

かと怒るのでは”等という想念があれば、それが真つ先に相手に伝わるのです。M Mさんは、心の底から楽しい夢を描き続けられ、それを素直に語り、結果、誘われた夫君や娘さんも同じ夢をご覧になったのではないでしようか。

こうしたことは、人にご浄霊をお伝えする時と同じです。以前初めてお会いする方に”何をどのようにお伝えしようか”と、悩んでいたところ、先生より「想念が違ふ」と、注意を受けたことがあります。

「その方の事情をよく知って、可哀想に、明主様のお力を知ったらどんなにか幸せだろうに」と、思いやりや愛情を心に一杯溜めて、お祈りし出掛けよ」

「自分の行為が誤解され、悪く言われるのを恐れたり、成果として格好よく見せようとするのは、自己愛のご用だよ」

「自己という想念を忘れなさい」

「お導きは、自分の成長の場、すべては想念を整えなさい」と。

M家のご先祖様も嬉しかったでしょうね。先祖は、勝手に自分の意思で行動することは許されません。特に聖地参拝は羨望で、子孫を頼り一緒に神様の許を訪ねるのです。ですから、出発二日前夢で、今は亡きお父さんが、所長に「私も行っていいですか」という夢を見せ、現界人と霊界人の果たす役割りの尊さを感謝と共に伝え、これ

からも頼むね”という思いを伝えてこられたのではないでしようか。

淡路グループのYMさんです。八年前腎臓癌の手術で左腎臓を摘出されました。あまりの苦しさ「明主様助けて」と思わず叫ばれたそうです。そういう中から救われ、無い命を許され、以来感謝を形に表しお返しさせていただけようと決意され、日々の生活を、まず明主様のご用からと心がけていらつしやいます。人生の順序と礼節をしっかりと意識される姿には感心致しました。集会所の行事予定表を見て、自分の浄霊訪問計画を立て、そして、浄化者やその他の訪問等の一週間の予定を立て、それからお仕事珠算教室や淡路珠算協会の検定部長の大役を果たしてきていらつしやいます。だからすべてが上手いくのでしよう。世の中に、神様の掌から離れるものは何一つ存在しないのですから。

この度教団浄化に巻き込まれ、ご苦勞をされつつ、信仰心を貫き当会に所属されましたが、その後心労から原因不明の体調不良が続き、理解ある夫君の協力や先生、お仲間のお支えをいただかれました。それでも大切な信仰の営みは、浄化に甘えることなくキチツとこなされていきます。なかなか難しいことです。

そうした中、神戸須磨集会所で開催されるみ教え拝読会に参加できるまでになりました。集会所では、おひか

りの強さを感じ取られ、参拝するたびに体は回復したと感謝されています。

医学的な原因不明、それは見えないところに原因があるということでしょう。御神前に御玉串を捧げ、参拝された時「浄化は、大丈夫」という声が聞こえたそうですが、明主様から普段の信仰姿勢が評価され「改めて、私を手伝え」という要請が来たのだと思います。ですから、長い体調不良は「次のご用を担うための霊体の浄め、衣替えが許された」のではないのでしょうか。

大変な中にも、この度先生方から推されて教団資格審査に参加されました。YMさんは「今後、先生を中心に明るく、楽しく、皆と一緒に淡路に救いの輪が広がるように」と、決意を述べていらつしやいます。

そして夫君の理解と協力を感謝されていますが、これからのご用も、二人三脚となれば楽しいですね。

ご活躍を祈っております。

古賀集会所のHTさんも、この度教団資格の審査研修会に参加されました。

研修会に参加されるまでのこと、そして研修の一つ一つの日程の中で感じられたことなどを、本当に丁寧に几帳面に記されています。不思議なもので、こうした文章一つにも、その方の人格が表れると、感心しながら読ませていただきました。明主様は、素直な心をととても大切

にされ、逆にものごとを斜めに捉え考える癖をととても嫌われました。

HTさんのような真直ぐな方は、一見弱そうに見えますが本当は芯がとても強いのだと思います。「何があっても正しく生きる。天にも自分にも恥じない生き方をする」という、強い信念の方だと感じるのです。真の善人は、逆の立場から見ると「煮ても焼いても食えない」存在が本当ではないのでしょうか。だから、明主様は「信頼がおける」と引き寄せられたのでしょうか。

今後もしも教えをしっかり学ばれ、実践を多く重ねられたら、明主様は一層信頼を強くされ、ご自身の代理人として大いにお使いくださるものと信じます。

私も、今後明主様が、どんな活躍の場を準備されているのかと、大変楽しみにしております。

広島グループのYKさんです。昭和二〇年八月六日朝、祖父が広島市内へ仕事に出かけようとした時、当時赤ちゃんだったYKさんの母親が、急に泣きじやくり、弁当の準備が間に合わず、予定の電車に乗り遅れたそうです。そのことで原爆に被災せず命拾いされました。そのお蔭で、現在の幸せがあるとのことご奉告でした。

赤子は、魂がまだ純粹で綺麗ですから、霊的な影響をよく受けます。昔、私の親が布教に出て妹の子守りを任せられた時、妹が泣きじやくると御神前に連れて行った

ものです。明主様の御尊影を見て急に泣き止み、時には声を出して笑うこともありました。

人間界の事象には、偶然はないと教えられています。YKさん宅には、元々高い守護霊がいらっしやって、子孫に期待し、必死に守られたのでしようね。

松山グループのMTさんは、グループのAさんのことで奉告されました。Aさんは膝を手術されました。術後隣室の方が、大声で叫ぶので皆困っていたようです。Aさんは身体が動かさなくても手は動きます。その方に向けて浄霊を始められました。五分では治まらず、七分で静かになったそうです。三日経つと本当に静かになり、周囲を困らせていた症状は治まったそうです。

その気さえあれば、どんな環境下でも明主様の愛をお取り次ぎすることはできるといふことを見せてくださいました。出来ない原因とは「自分の心の壁」なのです。その後、リハビリのため転院された直後に、元の病棟にコロナが発生し、間一髪で難を免れたり、医師から膝の回復の速さに驚かれたりと、ご守護いただくには、いただける理由もありますね。明主様は、大切なご用を手伝ってくれる人が居ないと困られますから、早く元気になって、明主様のみ手足として活躍されることを祈らせていただきます。

名古屋栄グループのTRさんです。名古屋栄グループ初めての感謝奉告、大変嬉しく読ませていただきました。

高齢になり、歩行が困難となってきたため「改めて明主様にお縋りたい」と、当会で活動を始められた和田先生に浄霊を求められたそうです。最初の浄霊で全身に光が行き渡るのを感じ、足に血が流れていくのが分かったそうです。凄いですね。その直後、杖一つで身体を動かせるようになり、翌日には、かかりつけの医師から「近い将来、杖は必要としなくなるでしょう。骨密度が四〇代まで回復しています。何故このようなことになったのですか」と逆に質問を受けたと報告されています。やはり「浄霊の力」ですよ。

余談ですが、私が子供の頃、近所のガキ大将から「お前のお守り見てみよう」と言われて、当時の明主様のお直筆が収納された大きな「おひかり」を開いたことがあります。後日、母親から大そう叱られました。母親が気付いたのは「まさしの浄霊、最近何も感じない。何かおかしい」と「おひかり」を確認されたのでした。すると、御書の折りにズレがあるのを見つけられ、疑問に思った母から問い詰められて白状させられました。「母親恐るべし」でした。「おひかり」は、このように非礼無礼を働く力を失います。奇蹟を出さない奇蹟で、関係者に知らされるのです。

話を戻します。Tさんの場合、一時止む無く「浄霊を



否定」するグループに所属されていきました。明主様に、今日まで様々なお願いをし、お世話になったのに、恩を仇で返すようなそのグループの言動は、非礼無礼としか言いようがありません。高田さん自身はそのように仰った訳ではないでしょうが、浄霊を否定するグループに所属しているということは「浄霊は要らない」と一緒に宣言しているようなものです。結果「おひかり」の働きが大きく落ちていたのではなかったかと考えますが、いかがでしょうか。

今回、健康に問題が発生し、その中で改めて歩む道を正され、明主様を真剣に求めたが故に回復が許されたのではないのでしょうか。明主様との光の霊線が強く復活したということなのでしょう。

恐らく高田さんの周囲には、同じような仲間がたくさんいらっしやると思います。今後、そのような方々の話が、耳に入るようになると思います。その仲間を支える使命もあるのではないかと思えてきます。

明主様のみ手足となられて、是非ご自身の体験を多くの方々に伝えてくだされば、明主様もお蔭の許しがいいあつたと、お喜びくださるのではないのでしょうか。

先月号では、六名の方から感謝奉告が寄せられ、お一人お一人が、ご自身の信仰体験を通して、明主様との出会いを許され、尚一層、報恩に向けて決意されているお姿に、大変嬉しく学ばせていただきました。

私自身、思い出すことも多くありました。ありがとうございます。ございました。

まだまだ残暑が続きます。過ぎ去る暑さとなるのか、居座る暑さとなるのか。気を抜く事はできませんが、季節は刻々と移り変わっていきます。実りの秋を迎えます。人間も大自然の一部ですから、皆様と共に、去年より成長の実り多い年にしたいものと願っております。皆様の、ご健勝とご活躍をお祈りいたします。

## 感謝奉告 ①

### 夫の浄化は私の浄化

田川布教所 TK

今年に入り、T家に起こった浄化の奉告をさせていただき  
ます。

昨年一二月三十一日、大晦日の朝七時頃、寝ていた主人が、  
突然の激しい腰痛で、動くことも立つこともできず、すぐ救  
急車を呼びました。救急隊員に「内科的ならともかく、外科  
での入院は難しい。担架で運んで受診はできるけれど、受診  
後は自宅に返されますが、連れて帰れますか？」と言われ、  
私一人では連れて帰るのは無理なので、正月休みが明けるま  
で家で看ますと伝え、帰ってもらいました。

正月休みが明け一月六日、近くの整形外科を受診しました。  
結果は、「骨折はない、おそらくぎっくり腰だろう」とのこと  
でした。ぎっくり腰なら、日にち薬なので耐えるしかないと  
思い様子をみましたが、良くなる兆しはなく、ますます痛み  
が激しくなり、両足の甲もパンパンに腫れてきました。心配  
になり、一月一九日に、思い切って飯塚のせき損センターを  
受診しました。私の車に乗せて行くのにも痛みがあり、とて

も大変でした。結果は胸椎と腰椎の二ヶ所が骨折していまし  
た。痛みが尋常ではなかったんです。

入院先がなかなか決まらなかったのですが、飯塚の共立病  
院が受け入れてくれることになりました。翌日に受診して、  
レントゲン検査をしたら、肺に異常が見つかり、「すぐ大き  
な病院を受診してください」と言われました。一月二十七日、  
もともとのかかりつけである飯塚病院の呼吸器外科を受診し  
ました。結果は、「左肺に水が溜まり、肺の壁に腫瘍があっ  
て、胃にもあやしい影がある」という診断でした。ベッドが  
空き次第、すぐ転院ということ、二月六日、共立病院から  
飯塚病院へ転院になりました。主治医からは、「肺癌、胃癌、  
転んでいないのに骨折したことから、骨に癌が転移している  
可能性があります。睡眠中の骨折は不自然です」と言われま  
した。主治医は延命治療のことにも触れ、あまりのショック  
で私は頭が真っ白になりました。

胃癌は胃カメラ、肺癌は胸腔鏡検査をするそうで、主人は  
ワーファリンやアスピリン系の薬を服用しているので、すべ  
ての検査にリスクがあるようです。特に肺癌の胸腔鏡検査は  
負担が大きく、かなり辛い検査のようでした。「体力もかな  
り落ちていて、検査に耐えられるか心配です」と主治医が言っ  
ていました。説明を聞いて、病院からの帰りは泣きながら、  
車の運転をしていました。もう死んでしまうのかとさえ考え  
ていました。

布教所に参拝したら、足黒さんが「Tさん、すべて神様に

お任せよ。何があってもクヨクヨ心配しないこと。心配執着になるからね」と言われました。これはみ教えに書いてあることだと気付き、今まで、み教え拝読を怠っていたことや、自分の信仰姿勢を反省し、布教所日参、み教え拝読、遠隔浄霊、家庭での朝夕拝など、自分のできることをさせていた。こうと決意し、明主様中心の生活ができるよう、また、人救いのご用にお使いいただけるよう頑張らせていただきたいと祈願書に書いて祈りました。また、聖地でもご祈願していただきました。飯塚病院に転院し、癌の可能性があると言われていましたが、二〇日後、胃カメラ異状なし、骨への転移異状なし、悪性胸水が溜まっていた肺は、水が消えてしまつて、検査が中止になりました。肺の水がどこかにいつてしまったのです。不思議です。辛い検査をせずに済みました。

入院生活も長くなり、精神的、体力的に限界で、ごはんが食べられなくなり、便も出にくく、激やせで57kgあつた体重が43kgまで落ち、栄養状態は最悪でした。飯塚病院も長く入院させてもらえず、リハビリのため、新生病院へ転院が決まりました。家に近い新生病院へ転院したら、一日でも早く家に帰りたいという思いが強くなり、厳しいリハビリも頑張りが、ごはんも食べられるようになりました。日毎に元気になっていき、五月三〇日に退院が決まっていました。それが、五月二五日入院中に心不全による肺炎と誤嚥性による肺炎で、再度また飯塚病院へ救急搬送されました。飯塚病院に着いた頃には、呼吸困難でも危険な状態だったので。両方の肺

に水がパンパンに溜まっていました。そして、また別の腰椎も骨折していたのです。〃今度こそもうだめか〃と思いましたが。すぐ布教所にご祈願をお願いし、聖地でもご祈願していただきました。その後、誤嚥性肺炎を繰り返し、食事が摂れず、栄養状態も悪く、体力も低下し、主治医から告げられたことは、〃今のままだと退院して自宅へ戻るのは難しい。療養型の病院に転院するか、施設入所を検討してください〃ということでした。〃何で急に次々とこんなことになるのだろう〃という不安が頭をかすめる中で、一生懸命お祈りしました。しかし、五月三〇日にも退院していたら、肺炎に気付かず、どうなっていたか分かりません。このタイミングで救急搬送されたことに、改めていただいたご守護の大きさに気付かされました。

子供達と話し合い、〃できたら療養型病院や施設に入れたくない。もう一度、回復期に入院していた新生病院にお願いしたい〃という結果となり、飯塚病院にはその旨を伝えましたが、〃おそろく新生病院に打診しても受け入れは難しいだろう〃とのことでした。

しばらくして、近所に新生病院に勤務している看護師さんがいるのですが、その方が家に来て、〃うちの病院から救急搬送されたのだから、また、うちの病院に帰ってこないといけないし、今からうちの病院で、リハビリや嚥下訓練、食形態など、Tさんに色々試してみたいから、院長や部長に、Tさんを引き受けて下さいとお願いしたよ〃と言ってくれま

した。何か目に見えない大きな力に導かれているように感じました。そして、七月一日、新生病院に帰ってきました。ちょうど、その頃、祖霊大祭の話があり、主人も状態が安定していないし、今年の参拝は無理かなと思っていました。すると足黒さんが「Tさん、聖地に力をいただきに行きましょう。そして、ご主人の祈願と奉告もしないとね」と言われ、さっそく主人に聞いてみたら、「行っておいで」と言ってくれたので、祖霊大祭に参拝させていただく決心をしました。今回はなぜか箱根にも参りたいという思いが強く、所長に「箱根にも行きたいです」とお願いしました。

箱根に参拝したことは今まで一回だけです。今回は三〇年ぶりで、箱根がどんな風景だったのか思い出せないくらいです。初日に奥津城に行き、明主様、二代様の御前で参拝させていただくことができ、次に光明神殿、紫微宮(祖霊舎)へ、そして竹庭、苔庭を散策すると何とも言えない気持ちの良さ、心が安らぎました。この日の箱根はとても涼しかったです。順々に参拝させていただき、本当に聖地に帰ってきたんだという嬉しさが込み上げ、涙が出そうになりました。

二日目は、熱海聖地で、MOA美術館、水晶殿と幸せな気持ちで拝観できました。救世会館に入った途端、何とも言えないパワーとオーラを感じました。こんなにゆつくりできて、幸せ、心が洗われ浄まるというのはこういうことなのかなと、今更ながらありがたく思いました。私の周りも感動で泣いていらっしやる方がいました。きっと祖霊様が喜んでおられる

のだなと思いました。

参拝後は、二階ホールと赤絨毯の間を清掃奉仕させていただきました。奉仕をさせていただいたのは初めてで、貴重な体験をさせていただきました。

二日間、疲れもなく、明主様にご面会いただけただけに感謝です。聖地と繋がってこそ、浄化も乗り越えさせていただけるのだと思います。明主様が色々な方々を通して、支えてくださり、改めてご守護いただきました。

主人の浄化と生きていましたが、私の浄化だったのかもかもしれません。明主様を求めることの大切さを私に教えてくれた主人にも感謝しないといけませんね。

主人が脳梗塞の病気になって、今年で一三年です。色々な浄化がありました。明主様の信仰に出会わせていただけことが一番のご守護です。この信仰に入って良かったと思います。まだまだ、これからですが、明主様のお役に立たせていただけますよう努めてまいりたいと思います。この度の主人の浄化でたくさんの方達にご祈願や励ましの言葉をいただき、本当にありがとうございます。

そして、急遽退院の日が決まり、九月四日にお許しをいただきました。

大神様、明主様ありがとうございました。

## 感謝奉告 ②

### 明主様、先祖に見守られて聖地参拝

田川布教所 KN

祖霊大祭に参拝させていただきました。その動機についてお話しようと思います。

五月八日、次女から「つわりがひどいから来週から少し島に来ることができないか？」と聞かれ、五月一六・一七日に祭事講習の食事作りを約束していたので、「その後ならいいよ」と返事をして、五月一八日に行く予定でした。でも次女から「限界です！」とラインがあり、主人から「布教所のことには、おまえがおらんでもどうにかなるから徳之島に、行ってやれ」と言われました。後で話を聞くと皆で協力して食事の準備ができ大丈夫だったそうです。所長は、私に「ひじきの煮物を作ったよ」と言っていました。私は自分がしなければと我が強いところを反省しました。

五月一三日の飛行機で行きました。娘は入院していましたので、病院に迎えに行きました。そして、家に連れて帰りました。「目が回る、縦揺れする」というのです。車の運転ができません。テレビも見れませんでした。三歳の男の子がいま

すので、動き回るのを見ても、気分が悪くなる様子でした。毎日ご浄霊のお取り次ぎをさせていただきました。

私は、地上天国祭より前の六月一〇日頃には帰ろうと考えていましたが、なかなか治りません。産婦人科の先生は「なんでしょうかね。原因が分かりません。三半規管が悪いかもしれないから、耳鼻科にかかったら」ということになりましたが、島には常時、耳鼻科の先生がいません。最短で六月三日の予約がとれました。私はいつになったら「田川に帰れるんだらう、アーア」という気持ちでした。布教所に用事があり電話をしたら、足黒さんが出ました。「Yちゃんどんな具合？」と聞かれましたので、状態を話すと「Nさん、心配し過ぎるとそれが執着になり、ご守護がいただきにくくなるよ。帰る日にちは、Nさんが決断しないとイケないと思うよ」と言ってくれました。

その日から「明主様にお任せしよう、六月末には帰ろう」と決めました。耳鼻科の診察結果は、「耳は悪くありません。つわりがひどかったもので、いろんな器官が低下したためめまいでしょう」と言われました。数日して車の運転ができるようになりました。孫のYが私に「ばあば、散歩に行こう」と言って連れて行くのが、M家のお墓です。墓石の前は砂が敷いてあって、そこで砂遊びをします。徳之島ではお盆の一日にはブルーシートを敷いて、そこで食事をするのです。私はお墓の前で善言讃詞をあげました。

いろんな場面で、明主様、ご先祖様に見守られていると

感じました。娘はまだ不安そうな顔をしていましたが、六月二九日に田川に帰ってきました。

七月に入って大掃除が終わり、奉仕の日に自分の班で、祖霊大祭の話を始めました。「祖霊大祭は暑いよね。でも特別のものがあるよね」と話していました。「Nさんは一月に参拝できないなら、祖霊大祭に絶対行った方がいいよ」とKさんが私に勧めるんです。私も「御礼に行きたいけど、一ヶ月半も徳之島に行っていたから、主人に言ったら、えっ行くの？」と返事が返ってくるだろうなと思っていました。

家に帰って恐る恐る聞くと「行ってくれば。そう言うつもりだった」と言うんです。Kさんも一緒に行こうと勧めると、「京都参拝でもきつかったのに、熱海はその倍の距離やろ、ムリムリ」と言っていました。「祖霊様が喜ぶよ。きつくなったらご浄霊をさせていただくから大丈夫よ」と御神前で勧めると「分かった行きます」と返ってきました。私は手を叩いて喜びました。

次々と参拝が許され、北九州のKさん、(別の)Kさん、田川の一〇名、含め一二名での参拝でした。私は飛行機でも新幹線でもどこにも行けませんが、Kさんは、それができなくてきついようですが、言葉にはあまり出しません。新幹線の中では、自己浄霊をしたり、おしゃべりをして行きました。熱海に着いて、北林先生と一緒にMOA美術館を拝観しました。奥さんのカヨちゃんとも久しぶりに再会、「田川からたくさんの人が来てくれて嬉しいわ」と何度も言ってください

ました。二日目は、水晶殿に行きました。アーチ状のガラスから見える相模湾がとてもきれいで快く、ゆっくりとするこ  
とができました。救世会館に行き、参拝が始まると、私の横  
でKさんが一緒に参拝しているのが不思議な感じでした。田  
川布教所の皆と一緒に参拝できて嬉しかったです。明主様や  
ご先祖様に、日々のご守護に感謝、お礼を言いました。

参拝後に昼食をとってから、二階ホールと赤絨毯の間を清  
掃奉仕させていただきました。赤絨毯の間を掃除していると、  
以前一緒に参拝したNA先生のことを、鮮明に思い出しまし  
た。昔は寝台列車で来ていましたから「私はきついからここ  
に座っちよくき、美術館に行っておいで」との会話が思い出  
されました。短い時間の奉仕でしたが、とても嬉しかったで  
す。感謝です。聖地の先生方には大変お世話になりました。  
ありがとうございました。



## 関西地区平安郷奉仕

# 聖地奉仕を通して至福な平安郷を体感

九月三日、一九名の参加で、関西地区の平安郷奉仕が実現しました。ご奉仕に先立ち、み教えの学び合いについて語り合い、その後、研修センターで一時間程清掃奉仕。さらにその後も、お抹茶のおもてなしをいただくなど、いづのめ教団の配慮のもと、充実した時間を満喫。参加者は「楽しくご奉仕が許されました」「美味しい昼食、お抹茶の接待にも感謝です」「久しぶりにゆつたりとしたひと時を過ごすことができました」と口々に喜びを語っていました。



み教えの学びについて話し合う参加者



参拝席入口を丁寧に拭く



参拝席を隅々まで心を込めて



上の茶屋でのお抹茶の接待

新文明創造は身近なところから（箱根九月ご面会）



世界的災害と被災者へ寄り添う祈りを捧げた



一人ひとりの祈りが新文明創造を動かす

世界中が異常気象に見舞われ、北半球は熱波による災害が多発。ハワイ・マウイ島の山火事、国内における豪雨、台風による被災者に心を寄せ、一日も早い復旧の祈りが捧げられた。そして、新文明の創造は、身近な営みの中から始まることを確認し、一層の信仰充実と奉仕の誠のお捧げを約した。



国連「国際平和デー」に呼応（熱海九月世界平和祭）



戦禍、災禍による犠牲者に祈りを捧げる



コロナ禍を越えて聖地に集った参拝者

これまで祖霊大祭に併せて開催されてきた世界平和祈願祭は、今年から国連が定めた「国際平和デー」(9月21日)に合わせて催行されることとなった。人類の願いである世界平和。戦争、災害、事件、事故による犠牲者への祈りが捧げられ、平和な世界の実現に向かって努めていくことを誓った。

## 独り立ち 父の死

教祖が両親や兄夫婦、そして姉・志づの遺児・彦一郎とともに、明治三五年（一九〇二年）から数年間、青春の日々を過ごした築地は、東京の南東、堀割に囲まれた街並みで、東京湾の潮の香が間近に漂う海岸地帯の一面にある。この築地のすぐ南に、佃煮で有名な佃島があるが、これは隅田川が土砂を運んで作り上げた砂州である。現在では埋め立てが進んで、さらに沖合に晴海が生まれ、人口の埠頭には大型の貨物船も数多く横付けされている。しかし明治の末ごろは築地の隣の南小田原町から、佃島と並ぶ月島へ、伝馬船が通っており、「勝鬨の渡し」と呼ばれていた。

教祖が蒔絵を勉強し、また父・喜三郎と一緒に古美術商を営もうとして美術品を見る眼を養ったのは、じつにこの築地時代であった。そうして親子三代、六人の生活を支えていたのは、姉・志づの残した静月を売却し、その金を元にして建てた家作からの収入であった。けれども岡田家の静かな生活は、やがて大きな曲がり角を迎えることになった。大黒柱の喜三郎が亡くなったのである。明治三八年（一九〇五年）五月二二日のことであった。

## 小間物商「光琳堂」

喜三郎は、亡くなる前に、遺産として、兄には家作を、弟には身を立っていく資産として現金三五〇〇円を与えた。この額は昭和五五年（一九八〇年）度の物価に換算して、約八五〇万円になる。父の配慮と愛情のお蔭で、商売の元手には困らなかつた。しかし、父亡き今、経験の浅い教祖一人で古美術商を営むには冒険にすぎた。画家になりえず、さりとて古美術商への道も閉ざされた今、一体自分は何をすればいいのか。天を仰いで絶叫したい心境であつたであろう。かくして、教祖は三度も人生の選択を迫られる羽目に陥り、まったく途方にくれたのであつた。

そんなある日、いつも出入りしている知り合いの人が来て、「桶町の西仲通りに小間物屋の売り物がありますが、どうでしょう。」と声を掛けてくれた。確かな人の話であるうえに、何より場所が良い。西仲通りといえば、日本橋から銀座に至る大通り（現在の銀座通り）をはさんで、東仲通りと並ぶ、なかなか賑やかな商業地域である。

小間物屋というのは、婦人の化粧用の紅、白粉や櫛、簪などといった細々したものを商うものであるから、教祖は躊躇して、

「小間物のことはさっぱりわからないから……。」  
 といったんは断わつたが、かたわらから母の登里が、

「いいよ、お前、わからないところは私が見てあげるから、そのお店引き受けたらどう。お父さんが亡くなって、目利きの難しい骨董屋を始めるよりも、いつそ小間物屋を始めたら。」と助言した。母の励ましに動かされ、それでは、と教祖も決心して、店の権利を譲り受けたのであった。

その店は、九尺（約二・七メートル）間口の小さな借家であつたが、それだけに、近所の女房や娘たちが気安く買いに来そうな店であつた。教祖はこの店の屋号を、日本の代表的な画家の一人である尾形光琳に因んで「光琳堂」と名付けた。教祖は、かねてから尾形光琳の作品を最高の芸術として敬愛していた。そこで蒔絵を習い、製作するにあたって、光琳の芸術を現代に生かすことをみずからの目標としたのである。

したがって教祖は小間物店を開店するにあたって、以前からの念願どおり、自作の蒔絵を商品として並べるとともにみずからの美の理想と仰ぎ、心底熱愛してやまない光琳の名を取って、新しく経営する店の名としたのである。

当初は戸惑いを感じながら始めた商売であつたが、ひとたび開店するや教祖はこの仕事に没頭した。朝は早いうちに起きだして店の掃除をし、商品の仕入れに行つて帰つてきてから、早々に店をあけて客の応対をするという毎日である。小間物屋といえは化粧品から装身具まで、何くれと品数が多い。それを一つ一つ覚えていくのは容易でなかつた。しかし教祖は、母の登里に尋ねながら、梳油一個、元結一束のお客にも

心を込めて、

「へえ、いらつしやい。」

「ありがとうございます。」

と頭を下げ丁寧に挨拶を怠らなかつた。店はしだいに繁盛しだした。そのころのことである。親戚の中の苦勞人で教祖に忠告する者があつた。教祖はその思い出を次のように書いている。

「その人の曰く、『お前のような馬鹿正直の人間は世の中へ出た処で成功しつこない。何故なら、今の世の中で成功する奴は嘘をうまく吐き、三角流でなくては駄目だ。』と散々言はれたので、私も成程と思ひ、独立してから一生懸命嘘を巧くつくように努めてみたがどうもうまくゆかない。そればかりではない常に心の中は苦しんでならない。其結果『俺といふ人間は嘘は駄目だ。成功しなくてもいいから本来の正直流でやらう。』と決心し正直流で押し通した。処が之は意外実によくゆく、気がいい、人が信用する、といふ三拍子揃つてトントン拍子に発展し、終に一文無し同様の小商人から十年位経た頃、当時としては異数の成功者と言はれた程で、十数万円の資産家になつたのである。」

（次号へ続く）『東方之光』（上巻）より

注※ 「三角流」とは、義理・人情・交際の三つを欠くこと

※文字数の関係で省略箇所があります。詳細は原点を参照ください

## 感謝奉告 ③

### 明主様信仰を再び

鳴門グループ M A

和田先生から世界救世教へ戻る救済機関として『明主様と聖地に直結する会』があると聞き、「ご浄霊をいただきました。明主様のみ教えを学びたい」と思い、迷わず入会させていただきました。

私の家には御神体が無く、グループ長のOさんの家でお参りさせていただいています。Oさんの家に行くと、グループ長のKくんも、Kくんのお母さんも心よく迎えてくれます。毎回必ずご浄霊のお取り次ぎをしてくれます。二人の信仰のお話は、私の知らない事ばかりです。Oさんの家は私にとって学びの場です。布教所と同じです。直結の会に入会した途端、派遣切りになり、六月一四日にギックリ腰になり、二〇日には熱が出て、次から次へと浄化をいただきました。今まで止まっていた大神様、明主様のお働きが動き出したように思いました。浄化の中でもOさんの家でお参りできるので不安はありませんでした。

七月二三日、西村代表をお迎えしての徳島県信徒集會に参

加させていただきました。西村先生のお話はとても優しく分かり易かったです。徳島県信徒集會に参加して、私は目が醒めました。自分が救われたい、救われたいと思い、聖地直結の会に入会したのですが、実は人をお救いするご用にお使いいただくために入会したのだと、私にとって次へのステップに導かれたのだと気付かせていただきました。心が笑顔になれた集會でした。

八月二七日、Oさんの家で、鳴門グループ初めての感謝奉告祭が行われ、私も「家では長い間、家族間のご浄霊のお取り次ぎができなかったのですが、不思議とお盆前から家族にご浄霊のお取り次ぎが許されるようになりました。私は何も言わないのに、父はご浄霊の後、感謝箱に献金するようになりました」と、感謝奉告をさせていただきました。奉告を聞いてくださっていた和田先生から「神様のお導きによりMさんの心に変化があり、お父さんも素直に神様がいらっしゃることに気付かれ認められたのですね。良かったですね。私たちは、どのような立場にあらうとも明主様のお道具です。そのような思いを持ってお仕えさせていただきます、信仰させていただきます」とおっしゃってくださいました。

和田先生のお言葉を胸に、今ある目の前の出来事は、大神様、明主様の思いの現れだとお受けし「〇〇さんにも、大神様、明主様の愛と光が満ちあふれますように」とお祈りし、たくさんの人をお救いしたいと思えます。

## 感謝奉告 ④

### 間一髪、守られていること実感

淡路グループ NA

祖霊大祭に際していただきましたご守護につきまして奉告させていただきます。

もう二〇年以上、年四回の大祭に毎回前日夜から車で熱海に参拝させていただいております。片道七〜八時間かかります。最近では体力も落ち、道中、小一時間仮眠を取らないとたどり着けなくなりました。今回も強烈な睡魔に襲われ、そろそろ限界と仮眠のため名神高速養老SAに入りました。ところが車の姿勢に異変を感じ、降りて確認すると右前輪の空気があります。前輪のトラブルでこのまま気付かず時速一〇〇kmでもう一つ先のPAまたはSAまで走っていたらどうなっていたかと思うと恐ろしくなりました。

深夜三時にロードサービスを呼び、スペアタイヤに交換してもらいましたが、スペアタイヤではこの先五〇km程しか走れないので朝までこのまま待機し、朝一〇時を待って次の大垣インターで降りタイヤ交換するよう説明されました。やむをえず参拝は諦めましたが、スマートフォンで「スペアタイ

ヤ」と検索しますと「時速一〇〇kmで走行距離一〇〇kmまでは大丈夫」というデータを見つけ、早朝四時、スペアタイヤのまま帰宅することにしました。高速を七〇から八〇kmでゆっくり走ると、すぐに後続車が迫って来て、怖い場面が何度もありました。何とか無事帰宅することができました。

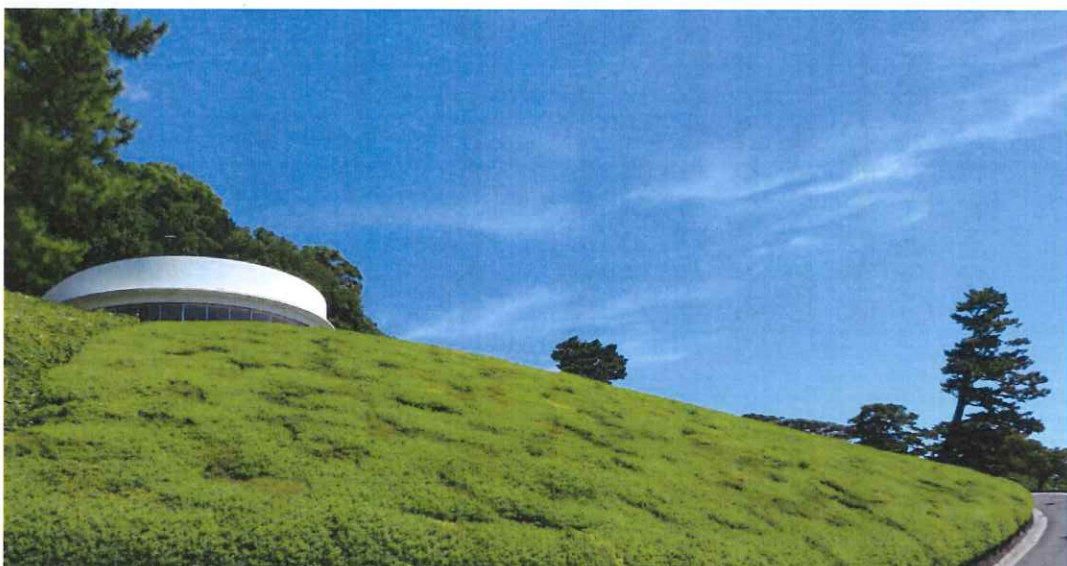
私は、昨年八月末、コロナ感染しその影響で徐脈の症状が出て一日に何度も心臓が止まり、服薬で様子を見ておりましたが、自宅療養中、一〇月二日の夜にシャワー浴中、窒息状態になり、三日に緊急入院、四日にペースメーカー留置の手術をしていました。

この夏の暑さは今の体には非常に辛く、今年の祖霊大祭前日は仕事であったため、普段なら自宅を二三時に出発するところ、何処かでもいつもより長く仮眠を取ろうと二時過ぎに自宅を出て余裕を持ったペースで走っていたこと、タイヤが裂ける前にSAに止まったこと、帰路が早朝であったため交通量が比較的少なかったこと、前日から一睡もしてないのに気温の低い時間帯に帰路だったので、何とか帰宅まで体力がもったことなど、今回参拝は許されませんでした。大神様、明主様、祖霊様のご守護を感じ、感謝しかありません。

現在、地元信仰拠点が無く、毎日最低一五分の遠隔浄霊を離れて暮らす息子に、そして一五分の自己浄霊とみ教えを声を出しながら拝読しておりますが、年四回の聖地参拝が信仰継続のモチベーションになっております。今回の件で改めて自分が日々守られている事を実感致しました。



目映い青と白亜色のコントラスト



青空と豊かな緑に包まれた景観台



MOA美術館庭園のヤブラン



庭園に佇む元三井家御門



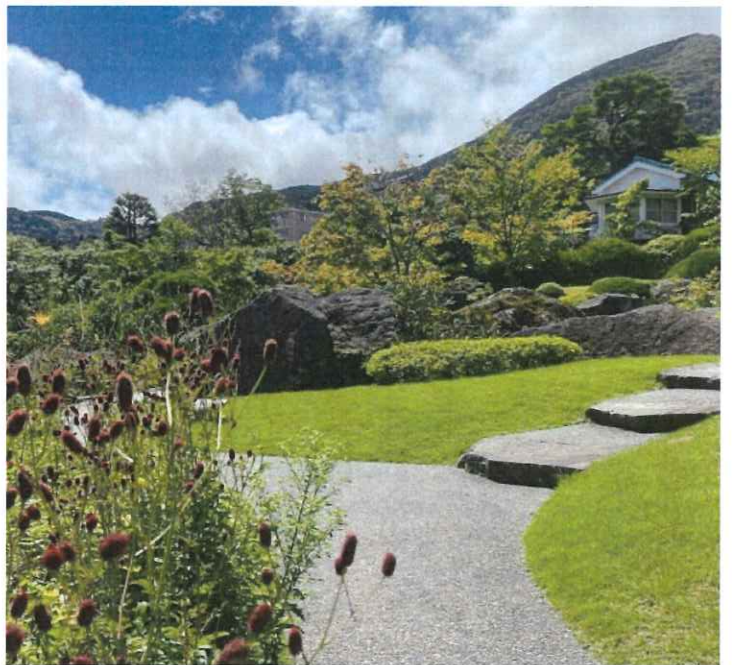
開花が始まった箱根美術館の萩



上棟式を終えて、建設が進む紫微宮



箱根美術館前の竹の淡い緑



えんじ色に染まる石楽園の吾亦紅



秋の七草、平安郷のオミナエシ



平安郷から望む広沢池の借景

## 明主様信仰以外に私の人生はない

リカルド・シルヴァ・ロッチ

二〇〇九年五月に入信が許され、それから約一〇年後、人生最大の危機に直面しましたが、信仰によって救われました。

現在、私は電子商取引（イーコマース）の会社を経営しております。結婚して子供が二人（男女一人ずつ）います。

二〇一八年の中頃、一時間弱の火事で倉庫が全焼。経営危機に陥った会社を立て直そうと、それからは仕事のためだけに生きる決意をしました。そうすることが家族にとってもベストだと信じたからです。

会社が加入していた保険では損害の一部しか補填されないばかりか、給付まで半年待たなければいけなかったため、私は昼夜を分かたず働きました。しかし間もなく会社は事実上倒産。それからは、経営の立て直しこそが人生の最優先課題となりました。

しかし、不安な気持ちを人に悟られまいと努めるうち、いつの間にか家族との間に溝が生じ、教会での御用奉仕からも遠ざかってしまいました。

精気を失い、何にでもすぐ苛立つようになったことで一番

苦勞をかけてしまったのは、他でもない愛する家族でした。気が付くと、あれほど築きたかった家庭がバラバラになってしまっていたのです。物質面の充足だけを追い求めた結果、私は掛け替えのないものを失おうとしていました。

長女はいつの間にか心の健康を害し、摂食障害を患うようになっていました。仕事が忙しくて娘の発する SOS サインに気づいてあげることができなかつたのです。そして、こうした子育てに於ける「父親不在」の状況が、夫婦関係にも深刻な亀裂を生じさせていました。

経営がようやく回復し始めた頃、高額な商品が相当数倉庫から盗まれ、それから僅か数週間後には、妻から離婚を切り出されました。また、あつという間にやせ細り、年相応の発達が見られなくなった当時一〇歳の娘は「拒食症」と診断されました。

私は人生で自分がこれほど途方に暮れることになるなど夢にも思っておりませんでした。人間の力ではもうどうにもならず、解決の糸口が全く見いだせない、まさに八方塞がりの状況に陥ってしまったのです。靈性を蔑ろにし、幸せな人生や天国的な生活を送るうえで大切にしなければいけないことを軽視していた報いだと反省しました。

悲しみに暮れ、道に迷った私は、行くべき道を照らす光を求めて、センター長にご相談しました。先生は私の話を聞いた後、「明主様を信じ、毎日できるだけ長い時間連続してご浄霊を頂いてみたらどうでしょう」と、アドバイスをして



くださいました。

アドバイスに従い、数週間徹底的にご浄霊をいただくと、私はセンター長をはじめとする資格者の皆さんや信者さんらに強く支えられていたことを実感し、「救世教ファミリーの一員になること」「利他愛の連鎖の一部を担うこと」とはどういうことかを、これまで以上に分らせていただきました。

当時、私が聞いた言葉の中で大変印象に残っているものが二つあります。一つは「明主様の着物をつかみ、一秒たりとも明主様から目を離してはいけない」というもの。そしてもう一つは、執着を取り、悩み苦しみを大神様、明主様にお委ねすることが大切だというフレーズでした。問題があっても、他人に頼らず、いつも自分一人で解決してきた私にとって、正直これを実践することは容易ではありませんでした。

たくさんのご浄霊をいただいたおかげで、二〇一九年の一二月頃から私の精神状態に改善の兆しが見え始め、心が軽くなり、自尊心を回復することができました。加えて、妻の心を取り戻し、家庭を立て直すにはどうすべきかを静かに模索できるようになったのです。

仕事の大部分を職員らに任せる一方、私自身は「自分の浄化に見合う御用奉仕をさせていただきたい」とセンター長にお願いしました。そして、毎日教会に通い、ご浄霊を通して大神様、明主様の御光を大勢の方にお取り次ぎするようになった他、センターの清掃奉仕も担うようになりました。（初日には一人でセンター中を掃除）献金に関しては、「過去最高

の誠を捧げる」という課題を自らに課して、それに取り組みました。加えて、経理や月次祭の準備、それに浄霊訪問も始めました。そして、二〇二〇年一月には世話人の御用も許され、一〇〇家庭とその祖霊様のお世話をさせていただけるようになりました。

また、自宅では毎日御神体に手を合わせながら、霊の曇りを払うお許しを頂けるよう御祈願申し上げ、家族が寝静まった後、皆に（合計で）三時間ご浄霊をさせていただくようになりました。睡魔に襲われ、浄霊をしながら寝落ちするようになることがあれば、家族より先に起きて、トータルで三時間にながけ、「明主様が提唱された理念の実践が娘に健康をもたらし、してくるはずだ」と想念しながら、娘の食事を準備し、彼女と食卓を共にしました。

また息子にも、かつてのように思いやりと優しさを持って接するようになりました。それによって夫婦間のトラブルはなくなり、妻の目には新たな輝きが宿るようになりました。こうして私たちは少しずつ愛と調和を取り戻していったのです。

「大神様と御神業にお仕えする」という目的を共有している私たち夫婦は今、これまでになく強い絆で結ばれています。

再び成長を始めた娘はわずか一年で背が一三cmも伸び、息子は優しくなりました。更に、私が仕事への執着を捨て、大神様、明主様に再び繋がった結果、強盗事件の被害額と火災

による損害額の倍を取り戻すことができたのです。

その後幾つかの商機にも恵まれ、事業を発展させることができた私は、多くの感謝献金をさせていただけるようになりました。これからも益々献金の御用に励んでまいりたいと思います。私は変わりました。精神的に強くなった今、一度崩壊した家庭を立て直し、御用奉仕にも一層精進させていただいています。

これまで数多くのご守護をくださった大神様と明主様には感謝の言葉も見つかりません。

妻の愛を取り戻せました。娘も健康を回復し、息子も優しく接してくれるようになりました。私は人生を救われたのです。かつて、これほど信仰が深まったことはありません。

これからも、私に許された幸福を一人でも多くの人と分かち合い、大神様の御光と明主様の御教えを世に広めてまいりたいと思います。私にとって人生の最優先課題は今、地上天国の建設です。

ありがとうございます。

「人類の未来を語る」①

高頭 和生

今回は、先にとり上げた『死は存在しない』（光文社新書）の著者・田坂広志氏の最新本『人類の未来を語る』（光文社）と一緒に学んでゆきたいと思います。

最新本で、著者は工学博士の視線から「科学と宗教が融合する時代」であると結論づけています。AIを駆使した現在の科学をもつてしても、未来は予測できない。しかし、世の中の法則を理解すると、大局的な流れは「予見できる」と言います。その法則とは、これまでの人類の発展の本質を観察し、世界がどのように進化発展してきたかという事実に基づいた法則であり、「未来を予見する五つの法則」として整理しています。

私はこの法則が、明主様が説かれる「真理」であり「大自然の法則」であり、そして「神の律法」と重なり「時代が急加速しながら明主様の御教えに迫いついてきて来ている！」と、ページをめくるごとに興奮いたします。著書は四〇〇頁以上あり、興味深くないへん充実した内容であります。その一部を紹介させていただきます。

相反する異質なものが結び合う

著者は、未来を予見する法則をあげる際の整理の仕方として「弁証法」という思考法を使います。私にとっては少し難しい言葉が出てきました。「弁証法」を簡単にいうと、「相反する二つの命題に対して、対立させるのではなく、より高い次元で融合する」という考え方です。縦と横の合い交える「いづのめめ思想」であり、火・水・土の働き、三位一体のようにも思います。異質なもの、また対立するものが結び合うための思考法が弁証法なのだと思いました。

弁証法の「五つの法則」とは、

- ① 「螺旋的プロセス」による発展の法則……世界はあたかも螺旋階段を登るように発展する
- ② 「否定の否定」による発展の法則……現在の「動き」は必ず将来「反転」する
- ③ 「量から質への変化」による発展の法則……「量」が一定の水準を超えると「質」が劇的に変化する
- ④ 「対立物の相互浸透」による発展の法則……対立し、競っているもの同士は互いに似てくる
- ⑤ 「矛盾の止揚」による発展の法則……「矛盾」とは

世界の発展の原動力である

と書かれています。これも私には少し難しい内容なのですが、著書に書かれている具体的な事例を引用し一緒に学んでゆきたいと思います。

## コロナパンデミック後に「超パンデミック社会」へ

二〇二〇年から始まった新型コロナウイルス感染症は世界中で猛威を振るいましたが、終息後にどのような社会を築くべきなのか。さらに、私たちが覚悟すべきは、これからの時代、新たなウイルスによる世界的パンデミックは、必ず、何度もやってくるということです。従って「いつ、いかなるパンデミックが到来しても、人々の安全と安心を十分に確保しながら、必要な経済活動が続けられる持続可能な社会」を作る必要があります、それを「超パンデミック社会」といい、そのためには「合理的利他主義」という「利他愛の社会に変化する必要がある」と書いています。

当時、政府から外出制限や移動を最小限にするため「新しい生活様式」という言葉が出されました。しかし、もつと大きな意味の感染抑制と経済活動を長期的に両立させるための「新たな社会」の在り方を築く必要があります。そのための「新常識」を、科学や技術、政治や行政、経済や経営、医療や福祉、教育や文化といったすべての分野において実現してゆくべきとあります。

具体的には、ウイルス感染症の予防、検査、治療などに関する医療手法や医療技術の開発と普及は当然に必要です。その上で、「人の接触と移動」を最小限に抑える技術体系のための新たな産業や「中央集権的な行政」から「地方分権的な行

政」により、地方自治体の権限を高めること。さらに首都機能が麻痺することを避けるために首都機能の「地方分散」。また「人材が不要になる業種」と「人材が不足する業種」の間で、平時から「従業員シェア」の準備をすることなどです。教育や文化の面においても、政府はオンライン学習の普及など、最先端技術を人材育成の分野に投下することなど、「新たな社会」を築く必要をあげています。

あらゆる分野におけるインフラ整備もさることながら、それを受け入れ運用していく私たち人間の思想が、「博愛」や「利他主義」になることが重要だと書かれています。

「経済危機」の場合は、経済的強者である富裕層が優位で「弱者を犠牲にすること」で乗り越えられるそうです。しかし、「パンデミック」の場合、著者はこれを人類に与えられた「連帯テスト」と表現していますが、ウイルスの感染爆発や医療崩壊においては、富裕層も貧困層も関係ありません。感染によつてエッセンシャルワーカーの多くをしめる貧困層が働けなくなれば、社会全体の機能が停止し、富裕層にも大きな影響を受けることになるわけです。故に「包括的・人道的社会システム」を築いてゆかないかぎり、乗り越えられないわけです。この「連帯テスト」は人類に与えられた「利他主義テスト」と呼ぶべきものであると言います。

この「合理的利他主義」は、「自己主義」に対立する「利他主義」ではありません。「自分を犠牲にして、他人に尽くす」という意味の自己主義を前提とした利他主義ではなく、「他人に尽

くすことが、自分の利益にもなる」という「弁証法」の思考です。仏教でいわれる「利他は自利なり」とことわざの「情けは人のためならず」などのように、自己と利他を対立させずに、より高い次元で融合する思考と言います。

この「合理的利他主義」は、パンデミック危機のみに求められているのではなく、これからの人類社会が直面する数々の危機、地球温暖化、環境破壊、資源枯渇、エネルギー危機、水資源不足、食料危機などの解決のためには、「未来の世代の利益を大切にすることが、現在の世代の利益になる」という意味での「合理的利他主義」が必要だと言われます。

これまでの歴史を振り返ると、社会的弱者や貧困層への「利他主義」を標榜してきたのは、博愛や慈悲の心、論理や道徳の大切さを語ってきた「宗教」であつたと、しかしこれからは、「科学」も客観的な現実認識と未来予見によって「合理的利他主義」を推進する立場になると著者は言い切っています。経験したことから学び、グルッと回つてもとに戻ってくるのではなく、螺旋階段のように、ひとつ高いところへ移っていくような発展のイメージです。

(前略) 私は「人を幸福にしなければ、自分は幸福になり得ない」と常に言うのである。

私の最大目標である地上天国とは、この私の心が共通し拡大されることと思っている。

(明主様に倣いて「私というもの」より)

今回は、著書の結論のひとつでもある「科学と宗教が融合される時代」を、さらに掘り下げてゆきたいと思えます。

## 田坂広志 人類の未来を語る



この連載は「明主様を求める」ひとつの切り口として紹介しています。会としてみ教え解釈の固定化を図る意図はありません。寛容にお読みいただければ幸いです。(編集者)

## オオカミと少年

⑤ウソばかりついている人は信用されない⑥

あるところにヒツジ飼いの少年がおりました。少年は、くる日もくる日もヒツジの世話ばかりしているので飽きてしまい、こう叫んでみました。

「大変だ！オオカミだ。オオカミがきたぞ」

すると村の人たちが慌てて集まってくるではありませんか。その様子がおかしくて、少年は数日後、また、「オオカミがきた！」

と叫びました。村人たちが二度もだまされて、カンカンに怒ったのはいうまでもありません。

ところが、数日後、今度は本当にオオカミがやってきたのです。

「大変だ！オオカミだ。オオカミがきたぞ。本当だ。助けてくれ！」

少年は泣きながらこう叫んでも、もう誰も本気にしてくれませんでした。そのため、少年が飼っているヒ



ツジはオオカミに襲われ、食べられてしまったのです。

(出展 「へたな人生論よりイソップ物語」 著者・植西聡、河出書房新社)

本シリーズも3回目になりました。子供達や孫達も積極的に意見や感想が出ていますか？出ているなら嬉しいですね。司会側の親として、子供の声にどうか笑顔で「うん。なるほど、なるほど…」や「やっぱりそうか…」とうなづき、さらに「○○ちゃんはずすがだ。やっぱりすごいね…」とほめてあげてください。親に認められた子供は喜びます。

明主様は『喜べば喜びごとが来る』と説かれています。私の反省ですが、自分の口癖で「ああ疲れた」「調子が悪い」「どうも身体がだるくて辛いな」と、ついつい無意識にネガティブな言葉を放っています。そうになると、オオカミ少年の「オオカミが来た」というのと同じような負の効果を生み出します。

私は、ともすると、自分自身の「不平不満」と「グチや泣き言」に包み込まれ「嬉しい、楽しい、ありがたい」という明るい想念から離れていきがちです。そこで、意識して、想念と言葉を明るくするように心掛けてみます。すると『喜べば喜びごとが来る』というのは真実ですね。少しではありますが「毎日が楽しく」なってくるのです。

世界救世教 明主様と聖地に直結する会  
(聖地直結の会)

〒413-0006

熱海市桃山町26-1 救世会館 1階

電話 0557 85 8060

FAX 0557 85 8185

seichicyokketsunokai@outlook.jp



中秋の名月